



DESCRIPTION

SBシリーズは、業務用途でほとんどの要望に応えるよう設計されたEAWのプレミアム・サブウーファーです。用途に合わせて選択できるよう、さまざまな特性とサイズの製品がそろっています。最高品質のユニットはEAWのエンジニアリングによるもので、持てる要素の中で最高のパワーと音響特性を提供します。SBシリーズは全モデルとも直接放射型で、エンクロージャーは最適にチューニングされたバスレフ型です。SBシリーズは最高の音響特性、最高の信頼性、そして最も耐久性が必要とされる用途で選ばれています。

SB1002は大型で高出力のサブウーファー・システムで、グラウンドスタックはもちろん一体型の金具で簡単にリギングすることもでき、ライブから固定設備まで幅広い現場に対応します。18インチのコーンドライバーを2本搭載してより豊かな低域を提供しますが、大きなユニットを搭載している割りにエンクロージャー前面の面積が小さく、音響特性と物理特性の両方に優れ、大型サブウーファー・アレイにも適しています。使用しているユニットもSB1002の為にデザインされたもので、4.5インチ径という強力なボイスコイルと、より軽量化を図るためネオジウム・マグネットを採用しています。

SB1002は低域特性を最適化するため、近年の洗練されたデジタルシグナルプロセッシングを併用するよう設計されています。クロスオーバーやイコライゼーションにはEAW製のプロセッサーをお使いください。

リギングシステムはEAWのラインアレイKF760シリーズと同様のもので、素早く簡単に使える2ポイントタイプです。リギングできる本数は12本までです。背面上部にあるハンドルが目印としても、またリギング中の位置調整にも便利です。

SB1002は大規模ライブイベントやダンスクラブ、大型宗教施設、ホールや劇場、企業イベント、ツアーリングに適しています。

デュアル 18 インチサブウーファー

注釈は最終ページの NOTES をご参照ください。

CONFIGURATION

サブシステム		
	ユニット	音響的負荷
SUB	18 インチコーン × 2	バスレフ
動作モード		
	アンプチャンネル	シグナルプロセッシング
	シングルアンプ LF1/LF2	DSP W/1 ウェイフィルター
	デュアルアンプ LF1, LF2	DSP W/1 ウェイフィルター

ACOUSTICAL PERFORMANCE

動作範囲	28 Hz ~ 160 Hz	
公称放射幅		
水平	360 度	
垂直	360 度	
軸上能率 (SPL)		
LF1/LF2 (全方向)	95 dB	28 Hz ~ 160 Hz
(半球空間)	101 dB	28 Hz ~ 160 Hz
入力インピーダンス (Ω)		
	公称	最小
LF1/LF2	4	3.8 @ 30 Hz
LF1, LF2	各 4	各 7.5 @ 30 Hz
ハイパスフィルター		
	ハイパス	⇒ 30 Hz, 12dB/oct
アクセラレートライフテスト		
システム LF1/LF2	98 V	2400 W @ 4 Ω
LF1, LF2	各 98 V	各 1200 W @ 8 Ω
ユニット (AES)	各 1200W	150 W @ 8 Ω
軸上限出力算出値 (全方向, SPL)		
	平均	ピーク
LF1/LF2 (全方向)	129 dB	135 dB
(半球空間)	135 dB	141 dB

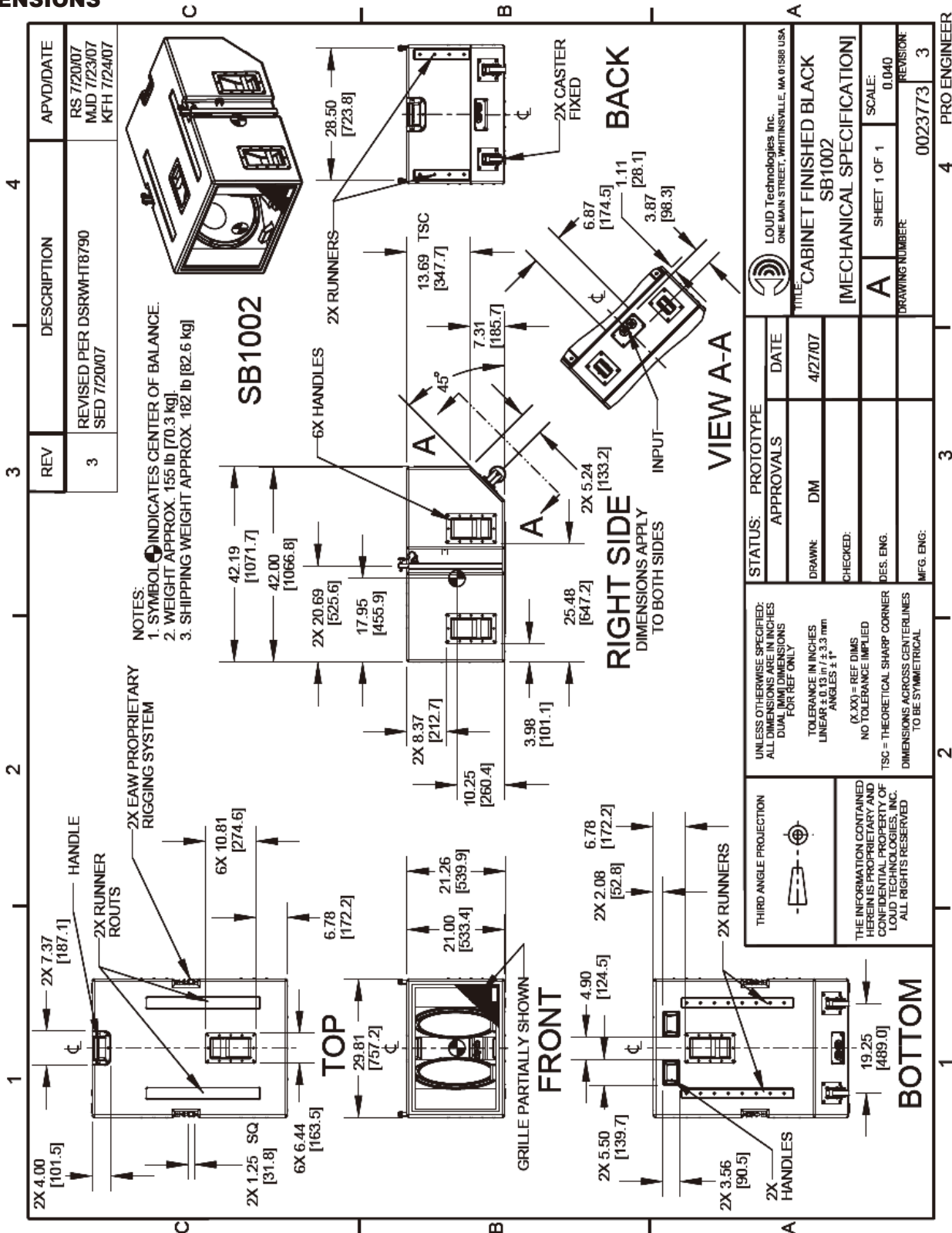
ORDERING DATA

	内容	パーツ番号
	SB1002 黒	0023835
オプション		
	フライバー FB1SB	0023840
	キャスターパレット PLT1K2	0023841

ENCLOSURE

素材	バルト海沿岸産樺材合板
仕上げ	RoadCoat 耐耗性黒色テクスチャーペイント
グリル	パウダーコーティングパンチングスチール

DIMENSIONS

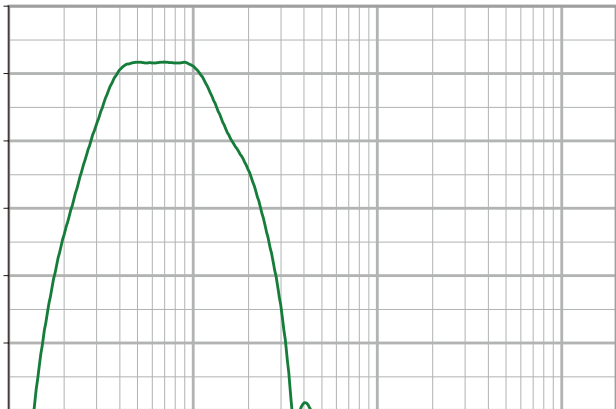


日本語版注釈

1. オリジナル図面における誤差は0.13インチ、±1度です。
2. 日本語版の図面は長さの単位をmmに換算しています。1インチ=25.4mmとし、換算後小数第一位で四捨五入してあります。
3. 日本語で表記した重量は1ポンド=450gで換算しています。

PERFORMANCE DATA 注釈は最終ページの NOTES をご参照ください。

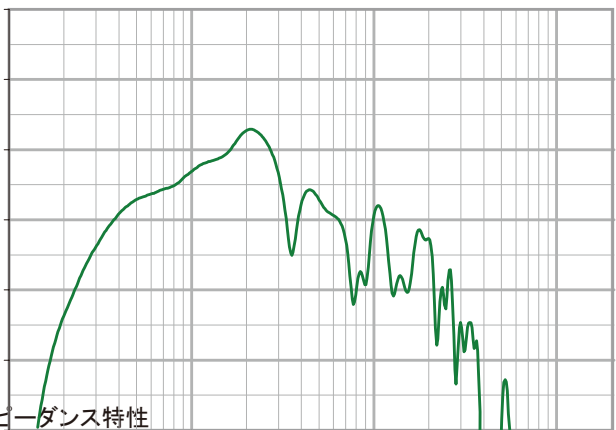
周波数特性：プロセッシング済みバイアンプの場合
LF= 緑 HF= 黒 合算 = 青



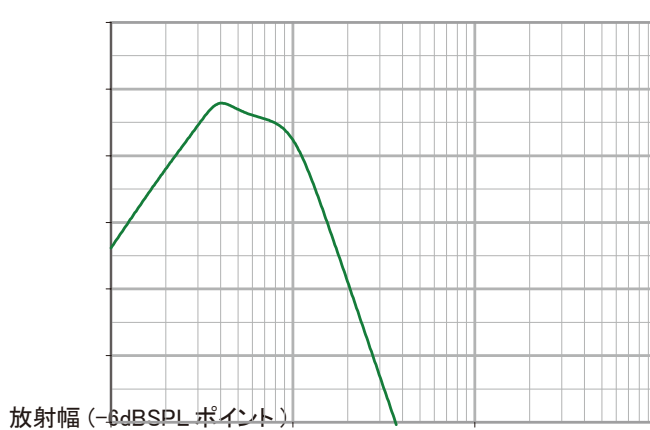
周波数特性：シングルアンプの場合
1本時 = 緑 複数本時 = 橙 ロングスロー = 黒



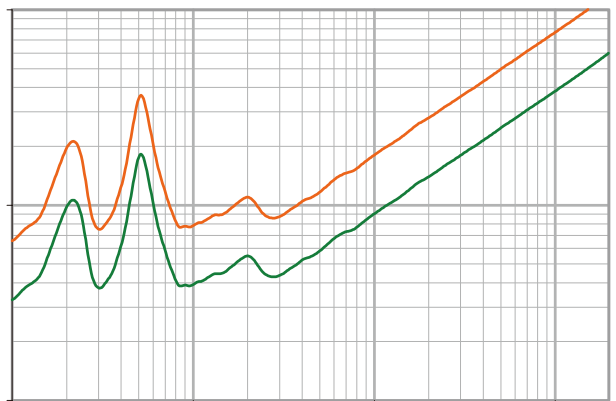
周波数特性：プロセッシングしていない場合
LF= 緑 HF= 黒 合算 = 青



周波数特性：デジタルシグナルプロセッサ
LF= 緑 HF= 黒



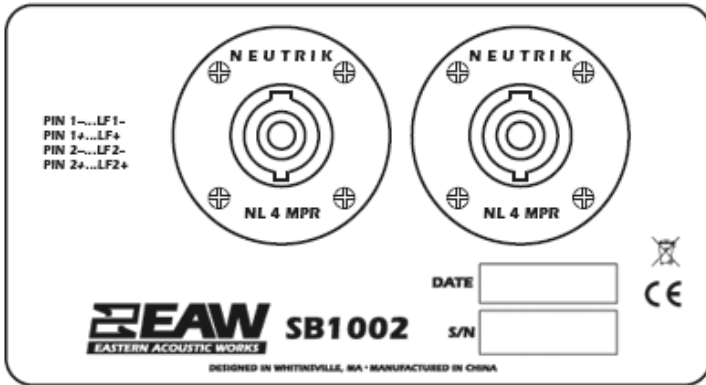
インピーダンス特性
LF= 緑 HF= 黒 合算 = 青



放射幅 (-6dB SPL ポイント)
水平 = 橙 垂直 = 黒

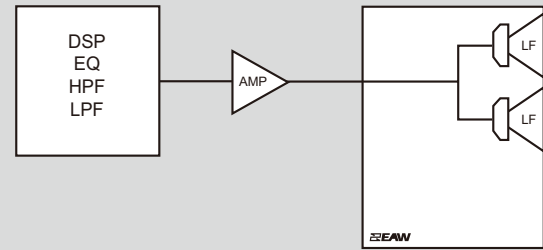


INPUT PANEL

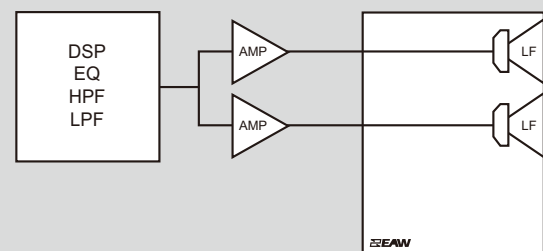


SIGNAL DIAGRAM

シングルアンプ (LF1/LF2)



デュアルアンプ (LF1, LF2)



LEGEND

- DSP: EQ、リミッター、ディレイ等用にデジタルシグナルプロセッサをご用意ください。
- HPF: クロスオーバー用、あるいは推奨値に設定してください。
- LPF: クロスオーバー用ローパスフィルターです。
- LF/MF/HF: LFは低域、MFは中域、HFは高域を表します。
- AMP: 適切なパワーアンプをご用意ください。
- XVR: パッシブのLPF、HPF、EQ

NOTES

表組みデータについて

- 測定 / データプロセッシングシステム…プライマリ: F-Chart (EAW 専用ソフトウェア) セカンダリ: B&K 2112
- マイクロフォンシステム…Earthworks M30 : B&K 4133
- 測定…デュアルチャンネル FFT FFT 長: 32768 サンプル サンプリング周波数: 48kHz 対数サインウェーブスイープ
- 測定システムの品質 (不明含む)…SPL: 正確度 $\pm 0.2\text{dB}@1\text{kHz}$, 精度: $\pm 0.5\text{dB}(20\text{Hz} \sim 20\text{kHz})$, 分解能: 0.05dB 周波数: 正確度: $\pm 1\%$, 精度: $\pm 0.1\text{Hz}$, 分解能: 1.5Hz または $1/48\text{oct}$ 以上 時間: 正確度: $\pm 10.4 \mu\text{s}$, 精度: $\pm 0.5 \mu\text{s}$, 分解能: $10.4 \mu\text{s}$ 角度: 正確度 ± 1 度, 精度: ± 0.5 度, 分解能: 0.5 度
- 環境…時間窓による測定 測定スペースの影響をプロセッシング時に排除し無響室をシミュレート 無響または小スペースのデータとしてプロセッシング
- 測定距離…7.46m 音響特性は 20m でのサブシステムのパワーを位相振幅合成で算出して表示 逆二乗則を適用して他距離のデータを算出
- V (ボルト)…テスト信号の rms 値を測定
- W (ワット)…プロオーディオ業界における「スピーカーの W」は因習的に電圧の 2 乗を定格公称インピーダンスで除算するため、国際的な基準で定義されたエネルギーとしての W という真の単位は存在しないものとした
- SPL (音圧レベル)…信号の平均レベル相当 $0\text{dB SPL}=20 \mu\text{Pa}$
- サブシステム…各通過帯域のユニット及びその音響的負荷 Sub= サブウーファー LF= 低域 MF= 中域 HF= 高域
- 動作モード…選択可能なコンフィギュレーション サブシステム同士がコマ (,) で区切られている場合 = アンプチャンネルは別 サブシステム同士がスラッシュ (/) で区切られている場合 = 単一アンプチャンネル DSP= デジタルシグナルプロセッサ ※重要※ 表記された仕様を実現するためには表記通りの EAW 設定による外付けデジタルシグナルプロセッサの併用が必要
- 動作帯域…プロセッシングされた周波数特性で平均出力音圧レベルから -10dB SPL 以内の範囲の数値 幾何学的な軸上で測定 狭い帯域でのディップを除く
- 公称放射幅… 0dB SPL を最高レベルとしたとき -6dB SPL のポイントで設定
- 軸上能率…公称インピーダンスで 1W を出力する入力電圧を供給したときの動作帯域における平均出力音圧レベル 外部プロセッサなし 幾何学的な軸上で測定 距離 1m
- 公称インピーダンス…4、8、16 Ω の抵抗を選択 最小インピーダンスポイントは動作範囲内でこの値を 20% 以上下回らない
- 推奨ハイパスフィルター…動作範囲を下回る過剰な入力信号からスピーカーを保護するために適用するもの
- アクセラレートライフトテスト…EIA-426B で定義されたスペクトルを供給した際の最大テスト入力電圧 推奨シグナルプロセッシング / プロテクトフィルターを併用して測定
- 軸上限界出力算出値…アクセラレートライフトテスト中に実現可能な平均音圧レベルの最高値とピーク音圧レベル ピーク SPL はライフトテスト信号が持つ $2:1(6\text{dB})$ のクレスタファクターを反映

グラフデータについて

- 解像度…重要性の低い細部を除去 音響的周波数特性は $1/12\text{oct}$ のケブストラムで平滑化 放射幅とインピーダンスは $1/3\text{oct}$ のケブストラムで平滑化 他は未加工
- 周波数特性…周波数ごとの音響出力の変動を表示 入力信号は一定 プロセッシング済みの場合は 0dB SPL でノーマライズ プロセッシングなしの場合、公称インピーダンス 4Ω は 2V , 公称インピーダンス 8Ω は 2.83V , 公称インピーダンス 16Ω は 4V で入力
- プロセッサの特性… $0.775\text{V}=0\text{dB}$ で一定の入力信号に対する周波数ごとの出力レベルの変動を表示
- 放射幅… $1/3\text{oct}$ の周波数帯での平均角度 スピーカー背面から測定を開始して最高レベル 0dB SPL に対して -6dB SPL となったポイント この方法では放射角度内に -6dB SPL までドロップした部分も含まれる
- インピーダンス…インピーダンスの変動を Ω で表示 対周波数で表示し電圧 / 電流の位相は参照しない インピーダンス値は真の W (上記参照) の算出には使用しないものと思われる
- ポラデータ… $1/3\text{oct}$ バンドごとの水平および垂直のポラ特性 測定範囲は $100\text{Hz} \sim 16\text{kHz}$ または動作範囲